

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3144849号
(U3144849)

(45) 発行日 平成20年9月18日(2008.9.18)

(24) 登録日 平成20年8月27日(2008.8.27)

(51) Int.Cl. F I
 H02J 7/00 (2006.01) H02J 7/00 3O1D
 H02J 17/00 (2006.01) H02J 17/00 B

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2008-3745 (U2008-3745)
 (22) 出願日 平成20年6月4日(2008.6.4)

(73) 実用新案権者 508167807
 富達通科技股▲ふん▼有限公司
 台湾台北縣中和市中正路872號14樓之5
 (74) 代理人 100082304
 弁理士 竹本 松司
 (74) 代理人 100088351
 弁理士 杉山 秀雄
 (74) 代理人 100093425
 弁理士 湯田 浩一
 (74) 代理人 100102495
 弁理士 魚住 高博
 (74) 代理人 100112302
 弁理士 手島 直彦

最終頁に続く

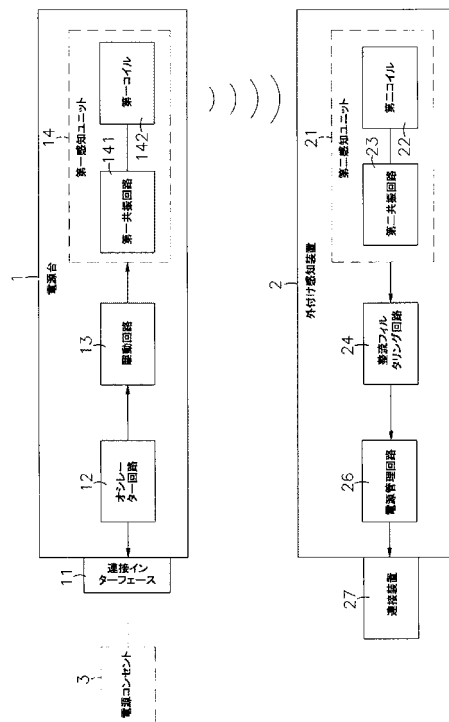
(54) 【考案の名称】 感知式パワーサプライ

(57) 【要約】

【課題】 感知式パワーサプライの提供。

【解決手段】 感知式パワーサプライは電源台、外付け感知装置により組成する。該電源台内部には順番に接続インターフェース、オシレーター回路、駆動回路、第一感知ユニットを設置する。しかも該第一感知ユニット内には順番に第一共振回路と第一コイルを含む。該外付け感知装置内部には第二感知ユニットを設置し、しかも該第二感知ユニットは順番に第二コイル、第二共振回路を含み、さらに整流フィルタリング回路、電源管理回路、接続装置を順番に接続する。外付け感知装置を携帯式電子装置に挿入接続する時、しかも携帯式電子装置を電極接点のない電源台上に置き、電源台の第一感知ユニットは電磁感知方式を利用し、交流信号を第二感知ユニットに発し、電力を携帯式電子装置に充電する。接続装置は互換性の高いインターフェースを使用するため、複数の携帯式電子装置を有する時にも、外付け感知装置を購入するだけで、電源台を共用することができ、よってコストを節減することができる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

電源台、外付け感知装置により組成し、

該電源台は所定の電源コンセントに挿入接続し電力を提供する接続インターフェースを設置し、該接続インターフェースは電力を交流信号を生じる共振回路に伝送し、共振回路は増幅機能を備える駆動回路を備え、駆動回路は交流信号の共振と発生を得ることができる第一感知ユニットをさらに接続し、

該外付け感知装置は電源台が発した交流信号を受信する第二感知ユニットを設置し、第二感知ユニットは交流信号を電力に転換する整流フィルタリング回路を接続し、電力の電圧と電流を調整する電源管理回路を接続し、さらに所定の携帯式電子装置に挿入接続し充電を行う接続装置を接続することを特徴とする感知式パワーサプライ。

10

【請求項 2】

請求項 1 記載の感知式パワーサプライにおいて、前記外付け感知装置は整流フィルタリング回路と電源管理回路の間に、蓄電機能を備える充電モジュールを設置し、該充電モジュール内には充電回路と蓄電池を順番に接続し、電源管理回路は接続装置を接続し、しかも該接続装置はUSB或いはミニUSB、或いは他の型式の接続装置であることを特徴とする感知式パワーサプライ。

【請求項 3】

請求項 1 記載の感知式パワーサプライにおいて、前記携帯式電子装置はデジカメ、携帯電話、MP3、或いは他の型式のデジタル製品であることを特徴とする感知式パワーサプライ。

20

【請求項 4】

請求項 1 記載の感知式パワーサプライにおいて、前記電源台の第一感知ユニットは共振を取得する第一共振回路、及び交流信号を発信及び受信する第一コイルを設置し、第一コイルは第一コイルが発する交流信号をフィードバック処理するフィードバック回路を接続し、しかも該フィードバック回路は交流信号を比較分析する第一制御回路を接続することを特徴とする感知式パワーサプライ。

【請求項 5】

請求項 4 記載の感知式パワーサプライにおいて、前記電源台内には信号処理モジュールを設置し、信号処理モジュール内には第一感知ユニットの第一コイルの信号を受信し、RF信号を除去する探知回路を設置し、その探知回路はデータ分析を行う信号処理回路を行い、信号処理回路は信号をエンコード及びデコードするコーダ回路を接続し、しかもコーダ回路は信号をミックスRFとし第一共振回路に伝送するミックス回路を接続し、さらに第一制御回路はデータを伝送することができる接続インターフェースを接続することを特徴とする感知式パワーサプライ。

30

【請求項 6】

請求項 1 記載の感知式パワーサプライにおいて、前記外付け感知装置の第二感知ユニットは共振を取得する第二共振回路、及び交流信号を発信及び受信する第二コイルを設置し、しかも外付け感知装置の第二感知ユニットには信号処理モジュールを設置し、信号処理モジュール内には第二共振回路の信号を受信し、モジュレート処理を行う信号処理回路を設置し、しかも信号処理回路は媒体データをデータ信号に転換する第二制御回路と調製回路を順番に接続し、第二制御回路をデータを保存するメモリーに接続することを特徴とする感知式パワーサプライ。

40

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は感知式パワーサプライに関する。特に第一感知ユニットを含む電源台及び第二感知ユニットを含む外付け式感知装置を含み、電源台と外付け式感知装置はコイル磁力感知の伝導方式を利用し、これにより外付け式感知装置を挿入接続する携帯式電子装置は充電を行うことができ、複数の携帯式電子装置がある時には、外付け式感知装置を購入する

50

だけで、その電源コンセントを共用することができるため、購入コストを節約することができる感知式パワーサプライに係る。

【背景技術】

【0002】

生活環境はデジタル時代に入り、デジカメ、携帯電話、MP3等の各種電子装置は日常生活に溢れている。しかも各種携帯式電子装置、製品はコンパクトで軽量という設計理念へと発展している。

しかし、いかにして随時携帯使用可能とする目的を達成するかには、先ず解決すべき重要な問題がある。それは電源の問題である。一般に最も普及している方式は、携帯式電子装置内に充電電池を設置し、電力を使い切った時には、新たに充電するというものである。しかし、現在人々はみな複数の携帯式電子装置を所有し、各携帯式電子装置はそれぞれ特定の互換性のある充電器を有するため、新しい携帯式電子装置を購入する度に、別に新しい充電器を購入しなければならず、経済上の負担を拡大している。

次に、現在の充電器の使用方式は、充電器の接続インターフェースを利用し電源コンセントに挿入接続し、さらに充電器の接続器を携帯式電子装置に挿入接続するものである。これによりその携帯式電子装置は充電を行うことができ、充電完成後、携帯式電子装置を充電器の接続器から外す。しかし、該充電器は電源コンセントのある場所で使用しなければならず、充電の場所に制限がある。もし屋外で急に充電の必要が生じた場合には、即時に充電することはできない。

【0003】

前記の充電器は使用時に、以下のようなお多くの欠点が存在する。

1. 複数の携帯式電子装置がある時には、各携帯式電子装置はみな特定の互換性のある充電器を有し、各携帯式電子装置は同一の充電器を使用することができないため、複数の充電器を購入しなければならず、経済的な負担が増大する。

2. 該充電器は電源コンセントに頼っているため、電源コンセントがなければ、充電器は携帯式電子装置に対して充電を行うことができない。よって充電場所の制限を受け、外出先で急に充電の必要が生じた場合には、即時に充電することはできない。

よって、上記公知構造の欠点をいかにして解決するかは、該産業に関わるメーカーにとって、研究改善の方向の所在である。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

本考案の主な目的は、第一感知ユニットを備える電源台及び第二感知ユニットを備える外付け感知装置を利用し、電源台を電源コンセントに接続する時、電源台の第一感知ユニットは電磁感知方式を利用し、交流信号を第二感知ユニットへと発し、整流フィルタリング回路は交流信号を直流信号に転換し、これにより外付け感知装置を挿入接続する携帯式電子装置は充電を行うことができ、複数の携帯式電子装置を有する時でも、外付け感知装置を購入するだけで、電源台を共用することができ、購入コストを節減することができる。

【0005】

本考案の次の目的は、外付け感知装置内には蓄電池及び充電回路を含む充電モジュールを設置し、整流フィルタリング回路と電源管理回路の間に設置し、通常は感知式パワーサプライの蓄電池を利用し電力を貯蔵し、外出時に、携帯式電子装置内の充電電池を使い切り、さらに電源コンセントが見つからない時にも、外付け感知装置を携帯式電子装置に挿入接続するだけで、充電を行うことができ、その利便性を拡大する。

【0006】

本考案の更に別の目的は、ベースバンドハードウェア伝送構造を提供し、該双方向データインターフェースは該クロック回復校正機能ブロックに接続し、該クロック回復校正機能ブロックが設置する受信データクロック修正器により、外から受信する信号のサンプルクロックを回復することができ、同時に該サンプルクロックとローカルクロック同期の機

10

20

30

40

50

能を備える。

【課題を解決するための手段】

【0007】

請求項1の考案は、電源台、外付け感知装置により組成し、

該電源台は所定の電源コンセントに挿入接続し電力を提供する接続インターフェースを設置し、該接続インターフェースは電力を交流信号を生じる共振回路に伝送し、共振回路は増幅機能を備える駆動回路を備え、駆動回路は交流信号の共振と発生を得ることができる第一感知ユニットをさらに接続し、

該外付け感知装置は電源台が発した交流信号を受信する第二感知ユニットを設置し、第二感知ユニットは交流信号を電力に転換する整流フィルタリング回路を接続し、電力の電圧と電流を調整する電源管理回路を接続し、さらに所定の携帯式電子装置に挿入接続し充電を行う接続装置を接続することを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

10

請求項2の考案は、請求項1記載の感知式パワーサプライにおいて、前記外付け感知装置は整流フィルタリング回路と電源管理回路の間に、蓄電機能を備える充電モジュールを設置し、該充電モジュール内には充電回路と蓄電池を順番に接続し、電源管理回路は接続装置を接続し、しかも該接続装置はUSB或いはミニUSB、或いは他の型式の接続装置であることを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

請求項3の考案は、請求項1記載の感知式パワーサプライにおいて、前記携帯式電子装置はデジカメ、携帯電話、MP3、或いは他の型式のデジタル製品であることを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

20

請求項4の考案は、請求項1記載の感知式パワーサプライにおいて、前記電源台の第一感知ユニットは共振を取得する第一共振回路、及び交流信号を発信及び受信する第一コイルを設置し、第一コイルは第一コイルが発する交流信号をフィードバック処理するフィードバック回路を接続し、しかも該フィードバック回路は交流信号を比較分析する第一制御回路を接続することを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

請求項5の考案は、請求項4記載の感知式パワーサプライにおいて、前記電源台内には信号処理モジュールを設置し、信号処理モジュール内には第一感知ユニットの第一コイルの信号を受信し、RF信号を除去する探知回路を設置し、その探知回路はデータ分析を行う信号処理回路を行い、信号処理回路は信号をエンコード及びデコードするコーダー回路を接続し、しかもコーダー回路は信号をミックスRFとし第一共振回路に伝送するミックス回路を接続し、さらに第一制御回路はデータを伝送することができる接続インターフェースを接続することを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

30

請求項6の考案は、請求項1記載の感知式パワーサプライにおいて、前記外付け感知装置の第二感知ユニットは共振を取得する第二共振回路、及び交流信号を発信及び受信する第二コイルを設置し、しかも外付け感知装置の第二感知ユニットには信号処理モジュールを設置し、信号処理モジュール内には第二共振回路の信号を受信し、モジュレート処理を行う信号処理回路を設置し、しかも信号処理回路は媒体データをデータ信号に転換する第二制御回路と調製回路を順番に接続し、第二制御回路をデータを保存するメモリーに接続することを特徴とする感知式パワーサプライとしている。

40

【考案の効果】

【0008】

本考案は第一感知ユニットを含む電源コンセント及び第二感知ユニットを含む外付け式感知装置を備え、電源台と外付け式感知装置はコイル磁力感知の伝導方式を利用し、これにより外付け式感知装置を挿入接続する携帯式電子装置は充電を行うことができ、複数の携帯式電子装置がある時には、外付け式感知装置を購入するだけで、その電源コンセントを共用することができるため、購入コストを節約することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

本考案第一最適実施例のブロックチャートである図1に示すように、感知式パワーサプライは電源台1、外付け感知装置2により組成する。

50

該電源台 1 内には順番に接続インターフェース 1 1、オシレーター回路 1 2 (周波数調整
または周波数非調整)、駆動回路 1 3、第一感知ユニット 1 4 を設置する。しかも該第
一感知ユニット 1 4 内には順番に第一共振回路 1 4 1 と第一コイル 1 4 2 を設置する。

該外付け感知装置 2 には第二感知ユニット 2 1 を設置し、しかも該第二感知ユニット 2
1 は順番に第二コイル 2 2、第二共振回路 2 3 を含む。さらに整流フィルタリング回路 2
4、電源管理回路 2 6、接続装置 2 7 を順番に接続する。

【 0 0 1 0 】

該電源台 1 の接続インターフェース 1 1 が作動電力を提供する電源コンセント 3 に挿入
接続すると、電力はオシレーター回路 1 2 により交流信号を生じ、駆動回路 1 3 を通して
増幅され、増幅後の交流信号は第一感知ユニット 1 4 の第一共振回路 1 4 1 を経て共振を
獲得し、第一コイル 1 4 2 は交流信号を発する。

10

該外付け感知装置 2 の第二感知ユニット 2 1 は第二コイル 2 2 と第二共振回路 2 3 を含
む。第二コイル 2 2 が電源台 1 の第一コイル 1 4 2 に接近すると、交流信号を第二共振回
路 2 3 へと発し、第二共振回路 2 3 と整流フィルタリング回路 2 4 は交流信号を直流電力
に転換し、電源管理回路 2 6 を通して必要な電圧と電流に調整し、接続装置 2 7 を経て携
帯式電子装置 4 へと挿入接続し、電力を携帯式電子装置 4 に供給し充電を行う。

本考案の接続装置 2 7 は USB (Universal Serial Bus) 或いはミニ USB (Universal Serial
Bus ,Mini) 等の各種の接続インターフェースである。この種の簡易な修飾及び等価構造変
化は、同一原理として本考案の実用新案登録範囲に含むものとする。

20

【 0 0 1 1 】

本考案第二最適実施例のブロックチャートである図 2 に示すように、該外付け感知装置
2 は整流フィルタリング回路 2 4 と電源管理回路 2 6 の間に、蓄電機能を備える充電モジ
ュール 2 5 を設置し、しかも該充電モジュール 2 5 内には充電回路 2 5 1 と蓄電池 2 5 2
を順番に接続する。第二コイル 2 2 が該電源台 1 の第一コイル 1 4 2 に接近すると、交流
信号を第二共振回路 2 3 へと発し、第二共振回路 2 3 と整流フィルタリング回路 2 4 は交
流信号を直流電力に転換し、充電モジュール 2 5 の充電回路 2 5 1 を利用し充電を行い、
電力を充電モジュール 2 5 の蓄電池 2 5 2 に貯蔵する。

外出時、電源コンセント 3 が見つからない時には、携帯式電子装置 4 は該外付け感知装
置 2 中の蓄電池 2 5 2 を利用するだけで、電源管理回路 2 6 を通して必要な電圧と電流を
調整し、接続装置 2 7 を経由し携帯式電子装置 4 へと接続し、充電回路 2 5 1 は蓄電池 2
5 2 の電力を携帯式電子装置 4 に供給し充電を行う。こうして電源台 1 を携帯する必要が
なく、また電源コンセント 3 を探す必要もなく、利便性を拡大することができる。

30

【 0 0 1 2 】

本考案第三実施例組み立て前の立体図である図 3、本考案第四最適実施例の立体図であ
る図 4 に示すように、電源台 1 の接続インターフェース 1 1 は電源コンセント 3 に接続し
、該外付け感知装置 2 を携帯式電子装置 4 へと挿入接続し、該電源台 1 上に置く。

該電源台 1 内には第一共振回路 1 4 1 と第一コイル 1 4 2 を含む第一感知ユニット 1 4
を有し、該外付け感知装置 2 内には第二コイル 2 2 と第二共振回路 2 3 を含む第二感知ユ
ニット 2 1 を有する。

該電源台 1 と該外付け感知装置 2 が一緒に接触すると、該外付け感知装置 2 内の接続装
置 2 7 を通して、携帯式電子装置 4 へと充電を行う。

40

【 0 0 1 3 】

本考案第五最適実施例のブロックチャートである図 5 に示すように、該電源台 1
の第一コイル 1 4 2 とオシレーター回路 1 2 の間には、フィードバック回路 1 5、第一制
御回路 1 6 を順番に接続する。

該接続インターフェース 1 1 が作動電力を提供する電源コンセント 3 に挿入接続すると
、電力はオシレーター回路 1 2 を経て交流信号を発生し、駆動回路 1 3 を通して増幅され
る。増幅後の交流信号は第一共振回路 1 4 1 を経て共振を獲得し、第一コイル 1 4 2 を通
して交流信号を発する。同時にフィードバック回路 1 5 は交流信号を第一制御回路 1 6 へ
とフィードバックし、第一制御回路 1 6 を利用し電圧或いは電流を分析し、実際に生じる

50

共振品質を取得し、しかも所定の共振品質と比較し、その差異の程度を求め、同時に、オシレーター回路12を制御し調整し、最適な共振周波数を発生する。よって、電源台1の生産過程において、別に関連の調整パーツを増設し、インダクター或いはキャパシターの作動性能に対して補償を行う必要はない。その調整パーツは専門の技術人員により煩瑣な調整動作を行う必要があるため、これを省くことで、電源台1の生産効率を向上させることができる。

【0014】

本考案第六最適実施例のブロックチャートである図6に示すように、該電源台1の第一コイル142はさらに信号処理ユニット17を接続する。該信号処理ユニット17内には探知回路171、信号処理回路172、コーダー回路173、ミックス回路174を接続する。該ミックス回路174は第一共振回路141に接続し、第一制御回路16によりコーダー回路173及び接続インターフェース11を接続し、しかも該接続インターフェース11はデータを伝送可能なUSB(Universal Serial Bus)或いはミニUSB(Universal Serial Bus, Mini)等の接続インターフェースである。

接続インターフェース11がデータ信号を第一制御回路16へと伝送する時、第一制御回路16は媒体データをデータ信号へと転換し、該コーダー回路173は第一制御回路16の信号を受信し、エンコードする。しかも該ミックス回路174は該コーダー回路173の信号を受信し、ミックスRF信号を第一共振回路141へと伝送し、第一共振回路141と第一コイル142を通してデータを伝送する。しかも該探知回路171は第一コイル142の信号を受信し、該探知回路171はモジュレーション方式を利用しRF信号を除去し、信号処理回路172により探知回路171の信号を受信し、分析を行う。コーダー回路173は信号処理回路172の信号を受信し、該コーダー回路173は信号をデコードし第一制御回路16へと送信する。第一制御回路16はデコード後の媒体信号を媒体データへと転換し、接続インターフェース11へと伝送する。

【0015】

本考案第七最適実施例のブロックチャートである図7に示すように、該外付け感知装置2の第二共振回路23は信号処理モジュール28を接続し、しかも信号処理モジュール28内には信号処理回路281、第二制御回路282、調製回路283を接続する。調製回路283は第二共振回路23を接続し、しかも第二制御回路282は整流フィルタリング回路24を接続する。

第二共振回路23が信号を信号処理回路281へと伝送する時、該信号処理回路281は信号をモジュレーション処理し、第二制御回路282へと伝送する。しかも第二制御回路282はデータ信号を媒体データへと転換し、第二制御回路282により信号を接続装置27へと伝送する。

【0016】

本考案第六、七最適実施例のブロックチャートである図6、7に示すように、該外付け感知装置2の接続装置27が携帯式電子装置4に挿入接続し、しかも同時に電源台1の接続インターフェース11が所定のコンピュータCPUに接続する時、該電源台1の接続インターフェース11はデータ信号を第一制御回路16へと伝送する。第一制御回路16は媒体データをデータ信号へと転換し、コーダー回路173は第一制御回路16の信号を受信しエンコードを行い、しかもミックス回路174はコーダー回路173の信号を受信し、ミックスRF信号を第一感知ユニット14へと伝送する。該第一感知ユニット14は共振感知を利用し、信号を第二感知ユニット21へと伝送し、第二感知ユニット21は信号を信号処理ユニット281へと伝送し、信号処理回路281は信号をモジュレート処理し、第二制御回路282へと伝送する。しかも第二制御回路282はデータ信号を媒体データへと転換し、第二制御回路282により信号を携帯式電子装置4に挿入接続する接続装置27へと伝送する。これにより携帯式電子装置4はコンピュータCPUのデータを受け取ることができる。

【0017】

本考案第八最適実施例のブロックチャートである図8に示すように、該外付け感知装置

2は信号処理モジュール28の第二制御回路282において、電源管理回路26と接続装置27を順番に接続し、しかも第二制御回路282はデータアクセス伝送が可能なメモリー29を接続設置する。これにより、所定のコンピュータに接続する電源台1は、該外付け感知装置2の第二感知ユニット21を通してデータ伝送を行うことができ、しかも該外付け感知装置2もまた接続装置27と携帯式電子装置4を通してデータ伝送を行うことができる。

該外付け感知装置2の外形はカード或いはブロック等の形状とすることができる。

【0018】

上記のように、本考案感知式パワーサプライの実際使用時には、以下の長所を備える。

1. 知式パワーサプライは第一コイル142を含む電源台1及び第二コイル22を含む外付け感知装置2を含み、該電源台1が電源コンセント3に挿入接続する時、該電源台1と該外付け感知装置2はコイル磁感知の伝導方式を利用し、外付け感知装置2を挿入接続する携帯式電子装置4は充電を行うことができる。携帯式電子装置4が複数ある時にも、外付け感知装置2を購入するだけでよく、しかも電源台1を共用することができ、購入コストを節約することができる。

2. 外付け感知装置2は整流フィルタリング回路24と電源管理回路26の間に、充電回路251と蓄電池252を含む充電モジュール25を設置し、通常は感知式パワーサプライを利用し充電を行い、蓄電池252に電力を貯蔵する。外出時には、携帯式電子装置4内の充電電池の電力を使い切ってしまう、電源コンセント3が見つからない時には、外付け感知装置2を携帯式電子装置4に挿入接続するだけで、充電を行うことができ、その利便性を向上させることができる。

3. 現在市場で見られる大部分の携帯式電子装置の伝送インターフェースはUSB(Universal Serial Bus)或いはミニUSB(Universal Serial Bus ,Mini)で、該外付け感知装置2の接続装置27と相同であり、市販されている大部分の携帯式電子装置4に適用することができる。もし他の伝送インターフェースであっても、外付け感知装置2を交換するだけで良く、感知式パワーサプライ全体を交換する必要はないため、その互換性と利便性を拡大することができる。

4. 電源台1内にはフィードバック回路15、第一制御回路16、オシレーター回路12を設置し、該フィードバック回路15は第一共振回路141の電圧を第一制御回路16へと伝送し、第一制御回路16は電圧を分析し、該オシレーター回路12により後続の入力交流電圧を調整後、電源台1は最適な共振周波数を発生する。

5. 外付け感知装置2の接続装置27を携帯式電子装置4に挿入接続し、しかも同時に電源台1の接続インターフェース11を所定のコンピュータCPUに接続する時、電源台1の接続インターフェース11はデータ信号を第一制御回路16へと伝送し、第一制御回路16は媒体データをデータ信号に転換し、コーダー回路173とミックス回路174はデコードを行い、ミックスRF信号を第一感知ユニット14へと伝送する。第一感知ユニット11は共振感知を利用し、信号を第二感知ユニット21へと伝送し、第二感知ユニット21は信号を信号処理回路281に伝送し、信号処理回路281及び第二制御回路282は信号をモジュレート処理し、データ信号を媒体データに転換し、第二制御回路282に伝送する。第二制御回路282により信号を携帯式電子装置に伝送し、こうして携帯式電子装置4はコンピュータCPUのデータを受け取ることができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本考案第一最適実施例のブロックチャートである。

【図2】本考案第二最適実施例のブロックチャートである。

【図3】本考案第三最適実施例組み立て前の立体図である。

【図4】本考案第四最適実施例の立体図である。

【図5】本考案第五最適実施例のブロックチャートである。

【図6】本考案第六最適実施例のブロックチャートである。

【図7】本考案第七最適実施例のブロックチャートである。

10

20

30

40

50

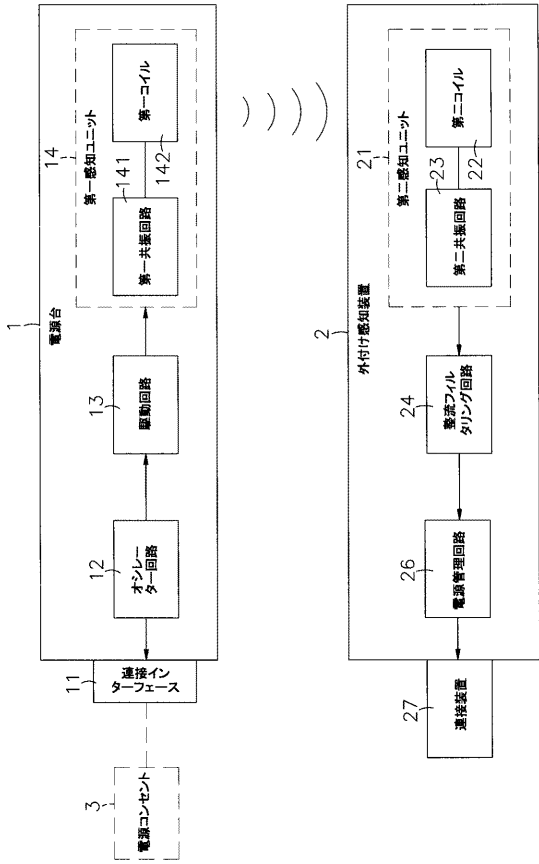
【図8】本考案第八最適実施例のブロックチャートである。

【符号の説明】

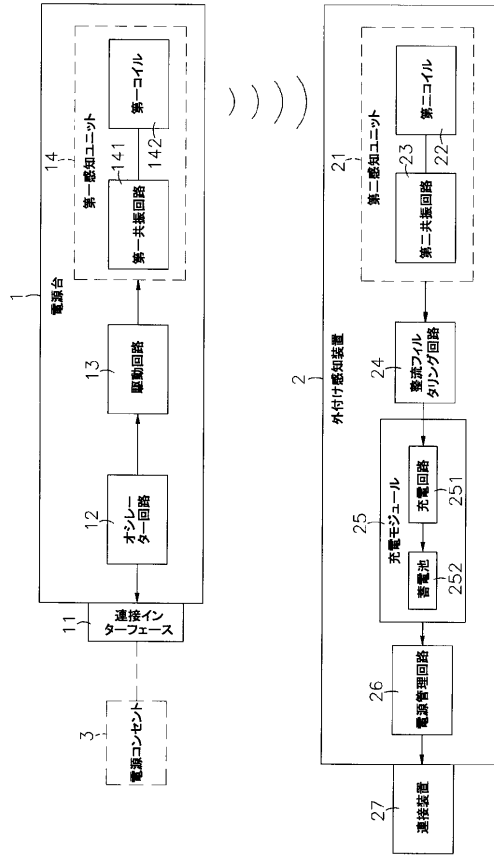
【0020】

- | | | |
|-------|-------------|----|
| 1 | 電源台 | |
| 1 1 | 接続インターフェース | |
| 1 2 | オシレーター回路 | |
| 1 3 | 駆動回路 | |
| 1 4 | 第一感知ユニット | |
| 1 4 1 | 第一共振回路 | |
| 1 4 2 | 第一コイル | 10 |
| 1 5 | フィードバック回路 | |
| 1 6 | 第一制御回路 | |
| 1 7 | 信号処理ユニット | |
| 1 7 1 | 探知回路 | |
| 1 7 2 | 信号処理回路 | |
| 1 7 3 | コーダー回路 | |
| 1 7 4 | ミックス回路 | |
| 2 | 外付け感知装置 | |
| 2 1 | 第二感知ユニット | |
| 2 2 | 第二コイル | 20 |
| 2 3 | 第二共振回路 | |
| 2 4 | 整流フィルタリング回路 | |
| 2 5 | 充電モジュール | |
| 2 5 1 | 充電回路 | |
| 2 5 2 | 蓄電池 | |
| 2 6 | 電源管理回路 | |
| 2 7 | 接続装置 | |
| 2 8 | 信号処理モジュール | |
| 2 8 1 | 信号処理回路 | |
| 2 8 2 | 第二制御回路 | 30 |
| 2 8 3 | 調製回路 | |
| 2 9 | メモリー | |
| 3 | 電源コンセント | |
| 4 | 携帯式電子装置 | |

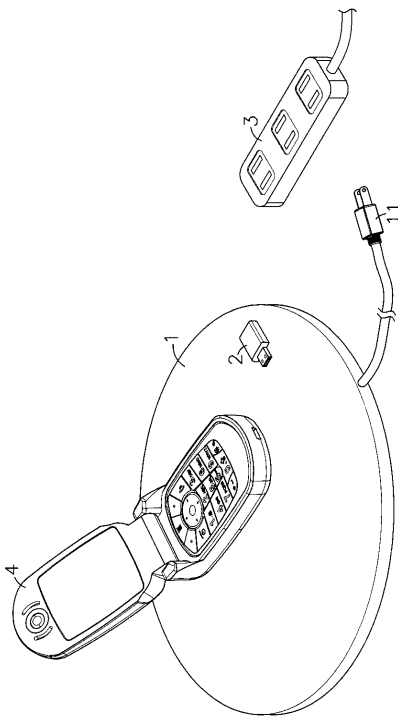
【図1】



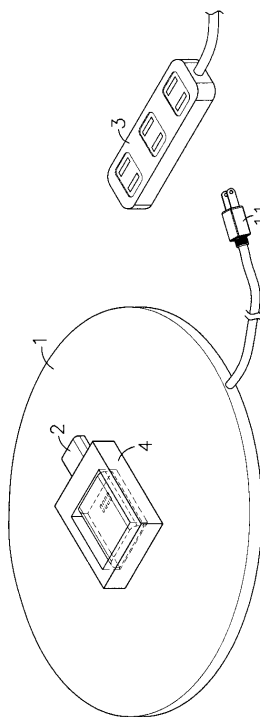
【図2】



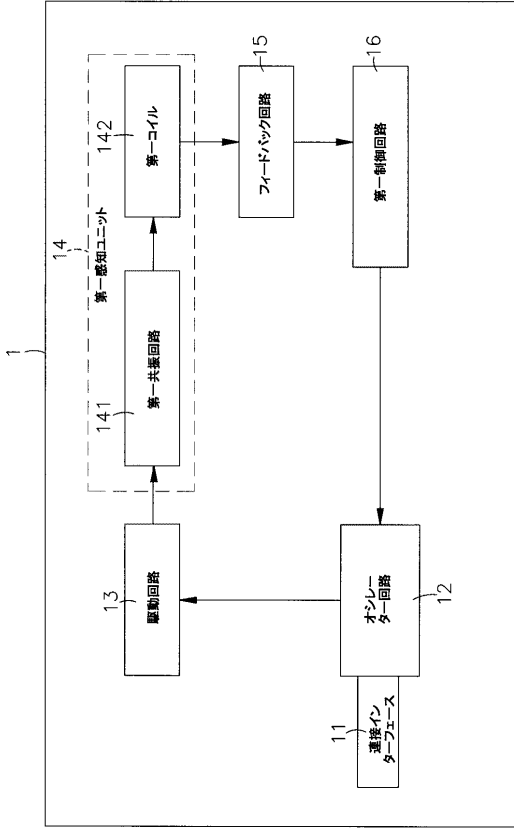
【図3】



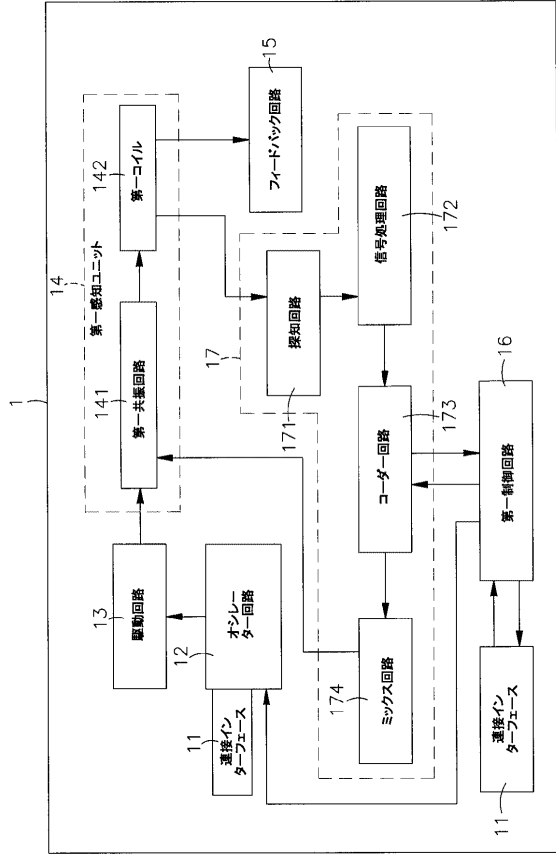
【図4】



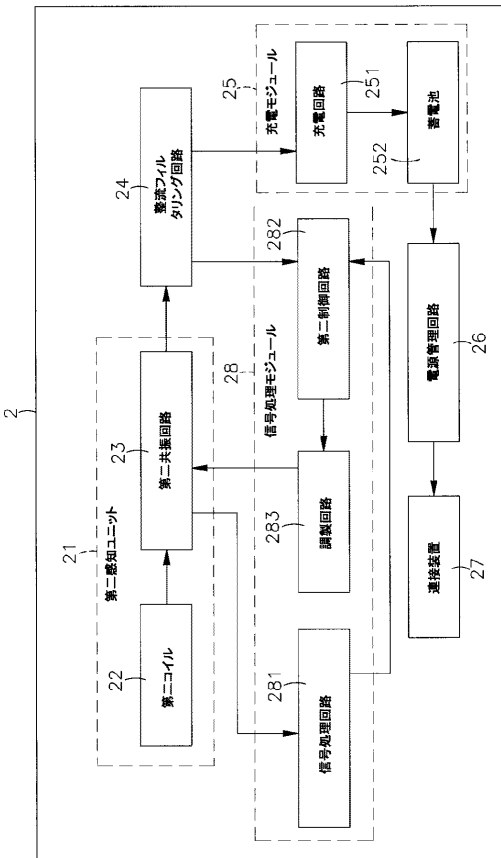
【図 5】



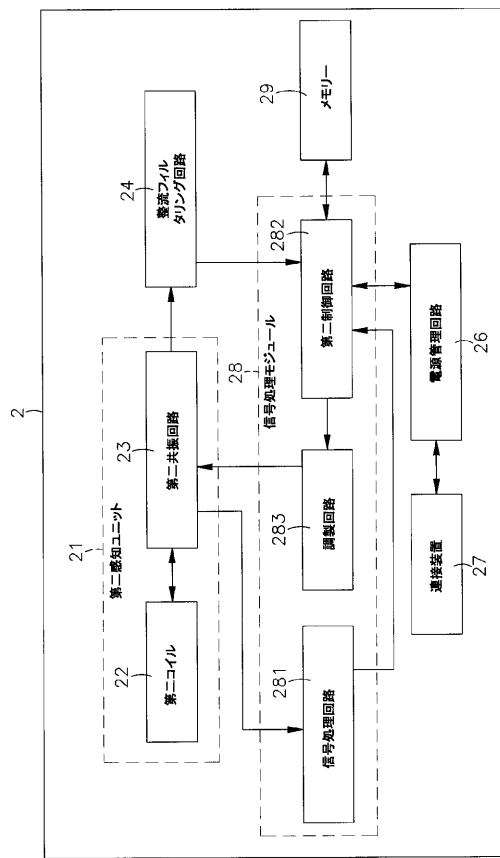
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【手続補正書】

【提出日】平成20年7月8日(2008.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

生活環境はデジタル時代に入り、デジカメ(登録商標)、携帯電話、MP3等の各種電子装置は日常生活に溢れている。しかも各種携帯式電子装置、製品はコンパクトで軽量という設計理念へと発展している。

しかし、いかにして随時携帯使用可能とする目的を達成するかには、先ず解決すべき重要な問題がある。それは電源の問題である。一般に最も普及している方式は、携帯式電子装置内に充電電池を設置し、電力を使い切った時には、新たに充電するというものである。しかし、現在人々はみな複数の携帯式電子装置を所有し、各携帯式電子装置はそれぞれ特定の互換性のある充電器を有するため、新しい携帯式電子装置を購入する度に、別に新しい充電器を購入しなければならない、経済上の負担を拡大している。

次に、現在の充電器の使用方式は、充電器の接続インターフェースを利用し電源コンセントに挿入接続し、さらに充電器の接続器を携帯式電子装置に挿入接続するものである。これによりその携帯式電子装置は充電を行うことができ、充電完成後、携帯式電子装置を充電器の接続器から外す。しかし、該充電器は電源コンセントのある場所で使用しなければならない、充電の場所に制限がある。もし屋外で急に充電の必要が生じた場合には、即時に充電することはできない。

フロントページの続き

(74)代理人 100152124

弁理士 白石 光男

(72)考案者 林 榮聰

台湾台北縣中和市中正路872號14樓之5